

令和5年度JA共済の運用益の使途について

令和5年1月

J A 共済の運用益事業について（令和5年度）

令和5年度計画額

合計額：1,153,318千円（72,768千円減（▲5.9%））

<主な変更点>

（単位：千円）

新規

自動車事故防止対策

内容	金額	前年度増減
交通安全啓発活動の浸透・定着に向けた取組み ○関係団体・行政（警察庁・PTA協議会等）に対し、J A 共済が制作した交通事故防止対策コンテンツについて一元的にまとめた情報発信を定期的実施し、効果的な展開・活用促進を図る。	10,000	新規
歩行者向け交通安全啓発活動の実施 ○薄暮時間帯・夜間の歩行中事故削減に向けた啓発活動を実施し、反射材の着用促進を図る。	30,000	新規

（単位：千円）

減額

自動車事故防止対策

内容	金額	前年度増減
シルバー世代向け交通安全教室の実施	88,000	▲8,000 （▲8.3%）

救急医療体制の整備

救急医療機器等購入費補助	350,000	▲20,000 （▲5.4%）
--------------	---------	--------------------

自動車事故被害者対策

交通事故無料法律相談事業・機関の支援	85,198	▲9,013 （▲9.5%）
--------------------	--------	-------------------

<予算の推移>

（単位：百万円）

令和3年度	令和4年度 (a)	令和5年度【案】 (b)	増減額 (b-a)	増減率 (%)
1,251	1,226	1,153	▲72	▲5.9

自賠責共済運用益拠出事業（詳細）

1. 自動車事故防止対策

（単位：千円）

事業の内容(令和5年度(案))	【 】内は事業主体	令和3年度 計画額	令和3年度 実績額	令和4年度 計画額 (a)	令和5年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛 全国のJA等で交通安全運動期間中に同運動ポスターを掲示し、交通事故防止を図る。【内閣府他】		1,000	863	1,000	1,000	0	0.0%
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛 シートベルト・チャイルドシート着用促進の広報活動等により交通事故防止を図る。 【シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会】		1,000	1,000	1,000	1,000	0	0.0%
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛 自動車点検整備推進運動に協賛し、交通事故の防止を図る。【自動車点検整備推進協議会】		500	500	500	500	0	0.0%
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業への協賛 交通安全スローガンおよび当該スローガンを使用したポスターの募集を行い、優秀作品を活用した啓発活動を実施し交通事故の防止を図る。【毎日新聞社・(一財)全日本交通安全協会】		2,750	2,750	2,750	2,750	0	0.0%
(5) 全日本交通安全協会の支援 交通安全に関する広報活動、交通安全表彰、交通安全教育の推進等を実施する(一財)全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。【(一財)全日本交通安全協会】		2,000	2,000	2,000	2,000	0	0.0%
(6) 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施 夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図るため、反射材フェアに協賛する。【(一財)全日本交通安全協会 (後援予定：警察庁)】		6,500	6,500	6,500	6,500	0	0.0%
(7) 幼児向け交通安全教室の実施 全国各地で、幼稚園・保育園とその保護者を対象とした交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA・JA共済連（後援予定：内閣府、警察庁、国土交通省他）】		155,000	40,231	116,500	116,500	0	0.0%
(8) 生徒向け自転車交通安全教室の実施 全国各地で、中高生を対象とした交通事故の実演（スタントマン）により自転車事故の危険性を学ぶ交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA共済連・各都道府県警察本部】		212,005	168,261	212,005	212,000	▲ 5	0.0%
(9) シルバー世代向け交通安全教室の実施 高齢者を対象とした交通安全講話や敏捷性測定等の交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA・JA共済連】		96,000	27,288	96,000	88,000	▲ 8,000	▲8.3%
(10) シルバー世代向け自動車安全運転診断の実施 高齢者を対象とした交通事故未然防止に向けた自動車安全運転診断等により、交通安全意識の向上促進を図る。【JA・JA共済連】		115,000	95,761	87,500	87,500	0	0.0%
(11) 交通安全啓発活動の浸透・定着に向けた取組み 関係団体・行政（警察庁・PTA協議会等）に対し、JA共済が制作した交通事故防止対策コンテンツについて一元的にまとめた情報発信を定期的実施し、効果的な展開・活用促進を図る。【JA・JA共済連】		—	—	—	10,000	10,000	—
(12) 歩行者向け交通安全啓発活動の実施 薄暮時間帯・夜間の歩行中事故削減に向けた啓発活動を実施し、反射材の着用促進を図る。【JA・JA共済連】		—	—	—	30,000	30,000	—
(13) ASV（先進安全自動車）普及促進に向けた広報啓発活動 高齢者を中心に、ASV（先進安全自動車）の普及促進に向けた広報・啓発活動を行う。【JA共済連他】		—	—	30,000	—	▲ 30,000	▲100.0%
(14) 自転車ヘルメット着用の必要性訴求のための啓発資料作成 自動車と自転車の衝突実験動画を制作し、JA共済ホームページや県警を通じた啓発活動を展開する。【JA共済連他】		—	—	40,000	—	▲ 40,000	▲100.0%
(14) シルバー世代向け交通安全啓発活動の実施 高齢者を対象とした交通安全啓発のための映像資料や冊子等を作成し、高齢者に対する交通安全啓発を行う。【JA・JA共済連】		20,000	19,902	—	—	—	—
小 計		611,755	365,059	595,755	557,750	▲ 38,005	▲6.4%

2. 救急医療体制の整備

(単位：千円)

事業の内容(令和5年度(案))	【 】内は事業主体	令和3年度 計画額	令和3年度 実績額	令和4年度 計画額 (a)	令和5年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 救急医療機器等購入費補助							
地域の救急医療を担う厚生連病院等に対して救急医療機器等の購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。全国の厚生連病院105病院のうち、96病院が救急告示を、30病院がへき地医療拠点病院指定を受けている。(令和4年3月31日現在)【厚生連病院他】		390,000	389,357	370,000	350,000	▲ 20,000	▲5.4%
(2) 救急ヘリ普及推進活動の支援							
救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。【認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク】		5,500	5,500	5,500	5,500	0	0.0%
小 計		395,500	394,857	375,500	355,500	▲ 20,000	▲5.3%

3. 自動車事故被害者対策

(単位：千円)

事業の内容(令和5年度(案))	【 】内は事業主体	令和3年度 計画額	令和3年度 実績額	令和4年度 計画額 (a)	令和5年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 自賠責制度周知活動の実施							
自賠責共済・保険の未加入車両の解消を図る自賠責制度周知活動を通じて、被害者救済を図る。【国土交通省他】		3,000	2,632	3,000	3,000	0	0.0%
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援							
自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、被害者救済を図る。【(公財)交通事故紛争処理センター】		60,570	60,570	64,211	60,198	▲ 4,013	▲6.2%
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援							
交通事故に関する無料法律相談機関を支援し、被害者救済を図る。【(公財)日弁連交通事故相談センター】		25,000	25,000	30,000	25,000	▲ 5,000	▲16.7%
(4) 介助犬の普及支援							
身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及活動を支援し、被害者救済を図る。【(社福)日本介助犬協会・NPO法人日本補助犬情報センター・JA・JA共済連】		55,800	43,742	55,800	50,050	▲ 5,750	▲10.3%
(5) 交通事故医療研究の支援							
交通事故医療に関する研究を公募のうえ選定した医療研究25件に助成し、医療の進歩に寄与することを通じて被害者救済を図る。【公募】		25,000	25,000	25,000	25,000	0	0.0%
(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援							
交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児等育成基金を支援し、被害者救済を図る。【(公財)交通遺児等育成基金】		2,397	1,729	2,620	2,620	0	0.0%
(7) (公財)交通遺児育英会の支援							
交通遺児の修学を援助する(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済を図る。【(公財)交通遺児育英会】		10,000	10,000	10,000	10,000	0	0.0%
(8) 重度脳損傷後の意識障がい者と家族に関する研究							
<令和3年度終了施策(3年計画の最終年度)> 家族の介護負担要員に対する方策の提案とそのニーズに関する調査を実施する。【筑波大学】		970	970	—	—	—	—
小 計		182,737	169,644	190,631	175,868	▲ 14,763	▲7.7%

4. 後遺障害認定対策

(単位：千円)

事業の内容(令和5年度(案))	【 】内は事業主体	令和3年度 計画額	令和3年度 実績額	令和4年度 計画額 (a)	令和5年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 適性な後遺障害認定に資する医療研究に対する支援の実施 交通事故医療に関する臨床的研究を対象に、研究課題を特定して公募のうえ選定した医療研究に助成し、交通事故被害者に対する適正な後遺障害認定に資する。【公募】		6,000	6,000	9,000	9,000	0	0.0%
小	計	6,000	6,000	9,000	9,000	0	0.0%

5. 医療費支払適正化対策

(単位：千円)

事業の内容(令和5年度(案))	【 】内は事業主体	令和3年度 計画額	令和3年度 実績額	令和4年度 計画額 (a)	令和5年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 医療分野研修等の実施 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。 【(一社)JA共済総合研究所】		55,200	46,302	55,200	55,200	0	0.0%
小	計	55,200	46,302	55,200	55,200	0	0.0%

※ 1. 自動車事故防止対策、2. 救急医療体制の整備、3. 自動車事故被害者対策、4. 後遺障害認定対策 および 5. 医療費支払適正化対策の合計金額

(単位：千円)

	令和3年度 計画額	令和3年度 実績額	令和4年度 計画額 (a)	令和5年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)	
合	計	1,251,192	981,863	1,226,086	1,153,318	▲ 72,768	▲5.9%

自賠責共済運用益拠出額の推移

(単位:千円)

年度 拠出項目	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度(案)		
	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)
1. 自動車事故防止対策	629,700	0	0.0	631,046	1,346	0.2	611,755	▲ 19,291	▲ 3.0	595,755	▲ 16,000	▲ 2.6	557,750	▲ 38,005	▲ 6.4
2. 救急医療体制の整備	415,500	▲ 20,000	▲ 4.5	395,500	▲ 20,000	▲ 4.8	395,500	0	0.0	375,500	▲ 20,000	▲ 5.1	355,500	▲ 20,000	▲ 5.3
3. 自動車事故被害者対策	191,925	▲ 7,120	▲ 3.5	193,104	1,179	0.6	182,737	▲ 10,367	▲ 5.3	190,631	7,894	4.3	175,868	▲ 14,763	▲ 7.7
4. 後遺障害認定対策	9,000	0	0.0	3,000	▲ 6,000	▲ 66.6	6,000	3,000	100.0	9,000	3,000	50.0	9,000	0	0.0
5. 医療費支払適正化対策	54,200	0	0.0	55,200	1,000	1.8	55,200	0	0.0	55,200	0	0.0	55,200	0	0.0
合計	1,300,325	▲ 27,120	▲ 2.0	1,277,850	▲ 22,475	▲ 1.7	1,251,192	▲ 26,658	▲ 2.0	1,226,086	▲ 25,106	▲ 2.0	1,153,318	▲ 72,768	▲ 5.9

(注) 拠出額は年度初期の予定額であり、実績額ではない。

令和3年度自賠責共済運用益拠出事業の内容

1. 自動車事故防止対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛 【863千円】	<p>★ 内閣府他の全国一斉交通安全運動に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 内閣府が主催する春および秋の全国交通安全運動用ポスターを購入・配布（春・秋各13,300枚）し、各JAおよび関連団体に掲示を依頼して期間中の各地域における交通安全活動に活用した。</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛 【1,000千円】	<p>★ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会の着用推進運動に協賛し、交通事故の防止・軽減を図る。</p> <p>○ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会（内閣府、文部科学省、警察庁、国土交通省および自動車関連団体等で構成、（一財）日本交通安全教育普及協会が事務局）のシートベルト・チャイルドシート着用推進運動に協賛。</p> <p>○ シートベルト・チャイルドシート着用必要性等の啓発広報活動。</p> <p>○ 適切な選定・装着促進のためのチャイルドシート指導員養成研修会の開催支援。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛 【500千円】	<p>★ 自動車点検整備推進協議会の自動車点検整備推進運動に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 自動車点検整備推進運動に協賛し、9～10月の自動車点検整備推進の重点月間に点検整備の重要性の周知を図ることを目的としたポスターを掲示およびチラシ等を配布した。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業への協賛 【2,750千円】	<p>★ 毎日新聞社・（一財）全日本交通安全協会の交通安全スローガン・ポスター募集事業に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 交通安全スローガンおよびポスターの募集事業に協賛（大賞受賞スローガンはJA共済全国一斉交通安全運動の統一スローガンとして使用）した。</p> <p>○ スローガン応募数：45,437点</p> <p>○ ポスター応募数：3,134点</p>	<p>○ スローガン、ポスターの大賞作品を選定する審査会に出席</p> <p>○ 活動状況についてヒアリングを実施</p>
(5) （一財）全日本交通安全協会の支援 【2,000千円】	<p>★ 交通安全事業を行う（一財）全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 「幼児教育用教材の作成・普及」や「チャイルドシートの使用に関する広報啓発」、「新入学児童への黄色いワッペン」の配布、「高齢者に対する交通安全教育」、「自転車の交通ルール・マナーの周知」などを実施</p> <p>○ 春の全国交通安全運動、秋の全国交通安全運動を関係省庁・団体と共催。</p> <p>○ 交通安全教育の推進。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(6) 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施 【6,500千円】	<p>★ 反射材フェアに協賛し、夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図る。</p> <p>○ （一財）全日本交通安全協会 反射材活用推進委員会が主催し、警察庁が後援する「反射材フェア」に協賛し、夜間の交通事故防止に効果的な反射材資材の普及促進を行う。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(7) 幼児向け交通安全教室の実施 【40,231千円】	<p>★ 幼児対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 幼児向け交通安全教室（ミュージカル）は、コロナ禍でも幼稚園・保育園単位で実施可能な小規模プログラムを展開したが開催回数が計画を大幅に下回った。（6回）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(8) 生徒向け自転車交通安全教室の実施 【168,261千円】	<p>★ 交通事故未然防止に必要な知識や技能の習得の促進を図る。</p> <p>○ 危険な自転車走行に伴う交通事故の実演（スタントマン）により、生徒に危険性を疑似体験させるスケアード・ストリート教育技法による自転車交通安全教室を警察等と連携し開催。（122回開催、42,602名参加）</p>	<p>○ 現地視察を実施</p> <p>○ 警察関係者へのヒアリングを実施</p>
(9) シルバー世代向け交通安全教室の実施 【27,288千円】	<p>★ 高齢者対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 全国各地で、高齢者向けプログラム（交通安全講話、身体機能の衰えに関するDVD鑑賞や敏捷性測定等）による高齢者対象の交通安全教室を開催。（6回開催、453名参加）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(10) シルバー世代向け自動車安全運転診断の実施 【95,761千円】	<p>★ 高齢者を対象に自動車安全運転診断等を実施し、交通安全意識の向上促進を図る。</p> <p>○ 全国各地でドライビングシミュレーター搭載車両「きずな号」を全国に巡回・派遣させ、高齢ドライバーを対象に安全運転診断を開催。（18回開催、357名参加）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施

(11) シルバー世代向け交通安全啓発活動の実施 【19,902千円】	<p>★ 昨今の高齢ドライバーによる重大事故発生を踏まえ、高齢者向けの交通安全啓発資材を作成する。</p> <p>○ 危険運転として社会問題となっている「高速道路の逆走」「ペダルの踏み間違い」に対する高齢者向け注意喚起動画・チラシを制作した。</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
--	---	-------------------

2. 救急医療体制の整備

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 救急医療機器等購入費補助 【389,357千円】	<p>★ 地域の救急医療を担う病院に対して救急医療機器等購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 43病院に対する救急医療機器購入費補助 旭川厚生病院、帯広厚生病院、遠軽厚生病院、網走厚生病院、倶知安厚生病院、かつの厚生病院 北秋田市民病院、能代厚生医療センター、秋田厚生医療センター、由利組合総合病院、大曲厚生医療センター 平鹿総合病院、雄勝中央病院、白河厚生総合病院、坂下厚生総合病院、総合病院 水戸協同病院 上都賀総合病院、佐野厚生総合病院、伊勢原協同病院、長野松代総合病院、南長野医療センター篠ノ井総合病院 富士見高原医療福祉センター 富士見高原病院、新潟医療センター、長岡中央総合病院、柏崎総合医療センター 上越総合病院、厚生連高岡病院、中農厚生病院、JA静岡厚生連遠州病院、江南厚生病院、松阪中央総合病院 三重北医療センターいなべ総合病院、尾道総合病院、広島総合病院、吉田総合病院、周東総合病院 小郡第一総合病院、吉野川医療センター、屋島総合病院、滝宮総合病院、JA高知病院、大分県厚生連鶴見病院 鹿児島厚生連病院</p> <p>主な機器は、超音波診断装置・内視鏡などであり、検査時間の短縮、診断精度の向上等、有効に活用されていることを事務局で確認している。</p> <p>○ 3病院に対するリハビリ機器購入費補助 みどり診療所、長岡総合病院、福岡整形外科病院</p>	○ 購入機器の写真等を添付した報告書を受領
(2) 救急ヘリ普及推進活動の支援 【5,500千円】	<p>★ 認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワークの救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動費用を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 救急医療用ヘリの有効性と必要性を広く広報するための広報誌「HEM-Netグラフ」等を発行。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施

3. 自動車事故被害者対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 自賠責制度周知活動の実施 【2,632千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 自賠責共済・自賠責保険の未加入車両の解消を図る自賠責制度周知活動を実施し、被害者救済に役立てる。 ○ 全国のJA等で秋の全国一斉交通安全運動期間を中心に、国土交通省作成のリーフレット（約70万部）・ポスター（約5万枚）を配布・掲示。 	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援 【60,570千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★（公財）交通事故紛争処理センターの自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、紛争解決を図る。 ○ JA共済加入車両の相談等は362件（前年度：396件）であり、前年度より取扱件数は減少となった。 	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援 【25,000千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通事故法律相談を行う（公財）日弁連交通事故相談センターを支援し、紛争解決を図る。 ○ 令和3年度のJA共済に加入している車両の交通事故に関する示談斡旋は、申込受理件数118件（前年度128件）、斡旋延回数210回（同241回）であり、審査は、申込受理件数12件（前年度28件）、審査回数30回（同52回）であった。 	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(4) 介助犬の普及の支援 【43,742千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及を支援し、被害者救済に役立てる。 ○ 特定NPO法人日本補助犬情報センター（旧、介助犬アカデミー）の活動状況 身体障害者補助犬育成補助事業など介助犬・補助犬に関する調査研究・講演等、介助犬・補助犬に関する啓発活動 ○（社福）日本介助犬協会の活動状況 介助犬の育成・提供、介助犬の認知度向上のための講演会・イベント開催、介助犬利用者・希望者の相談 ○ 介助犬の認知度向上を図るための、デモンストレーション・ポスター等による広報活動。（後援：厚生労働省） 	○ 活動状況についてヒアリングを実施 ○ 介助犬デモンストレーションの現地視察を実施
(5) 交通事故医療研究の支援 【25,000千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通事故医療の研究にかかる研究費の一部助成。 ○ 重症外傷患者における、エコー画像解析と筋障害マーカーを用いた全身筋障害の早期評価手法の開発 中野 秀比古（日立総合病院 救急集中治療科） ○ Hybrid Emergency Room System (HERS) がもたらす重症頭部外傷患者の長期予後に関する前向き観察研究 光山 裕美（大阪急性期・総合医療センター 救急診療科） ○ 外傷性頸部症候群における頸椎カラー固定の有効性に関する検討（ランダム化比較対照試験） 古矢 文雄（千葉大学医学部附属病院 整形外科） ○ 脳震盪と神経血管炎症：長期的認知機能診断マーカーの開発と治療への展開 高瀬 創（横浜市立大学 脳神経外科） ○ ショックを呈する外傷患者の急性期蘇生における低用量バゾプレシン投与とmetabolic resuscitationの可能性を探る 久志本 成樹（東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座 救急医学分野） ○ 高齢者軽症外傷患者における身体機能低下を予測する早期評価ツールの開発 中村 謙介（日立総合病院 救命救急センター） ○ タブレット端末とスタイラスペンを用いた書字動作評価システムの開発 小山 恭史（東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野） ○ 橈骨遠位端骨折後の日常動作復帰時期に指標作成とスマートフォンアプリを用いた評価システムの開発 田中 雄太（東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野） ○ トランスクリプトーム解析に基づいた外傷急性期凝固異常の新規分子ネットワーク病態解明 松原 庸博（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター） ○ 電子光学的アプローチの応用による大動脈内バルーン遮断（REBOA）管理中の新たなモニタリング法の開発 丸橋 孝昭（北里大学医学部 救命救急医学） ○ 重症外傷患者の睡眠と早期リハビリテーションの関連 松尾 照美（佐賀大学医学部附属病院 看護部） ○ 非重症外傷性脳損傷における脳内glymphatic systemの機能障害と高次脳機能障害の相関 大谷 直樹（日本大学病院 脳神経外科） ○ 脳外傷（びまん性軸索損傷）後の失調症に対する新たな歩行支援技術の開発～股関節屈曲・伸展トルクの調整による効果的な歩行改善効果の検討～ 岡本 隆嗣（西広島リハビリテーション病院） ○ 人工知能による顔面骨骨折の診断補助システム 西本 聡（兵庫医科大学 形成外科） ○ 顎関節の動的安定化機構の解析～顔面外傷修復後の咀嚼・発語機能の長期維持を目指して～ 吹野 恵子（東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 咬合機能矯正学分野） ○ 偽関節における骨SPECT（Single Photon Emission Computed Tomography）を用いた定量評価 大江 啓介（神戸大学医学部附属病院 整形外科） 	○ JA共済医療研究助成審査委員会を開催し、助成対象25テーマを選定 ○ 各研究の成果については、報告書の提出を求めるとともに、学会等にも積極的に発表するよう依頼している

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多発交通外傷に対するリハビリテーションとその効果を高めるためのマネジメント：医療ビッグデータを用いたリアルワールドリサーチ 百崎 良（三重大学大学院医学系研究科 リハビリテーション医学分野） ○ 病院前でショックを評価する新たな指標、脳筋組織酸素飽和度（rsO2）較差の検討 石田 健一郎（独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 救命救急センター） ○ 外傷性凝固障害（trauma-induced coagulopathy: TIC）の病態理解に基づく新診断基準の策定 和田 剛志（北海道大学大学院医学研究院 侵襲制御医学講座 救急医学教室） ○ 肺挫傷における損傷容積と凝固障害および必要輸血量の関連に関する検討 野邊 亮丞（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター） ○ 頭部外傷患者の網羅的遺伝子発現解析に基づいた新規治療法の確立 戸上 由貴（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター） ○ 大動脈遮断バルーン（resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta, REBOA）の新規蘇生治療戦略：超音波ドップラーでの遮断強度評価と血液浄化法による再灌流障害軽減 松村 洋輔（千葉県救急医療センター 集中治療科） ○ 認知行動療法を用いた外傷性頸部症候群治療補助ソフトウェアの開発 黄金 勲矢（札幌医科大学 医学部 整形外科科学講座） ○ 外傷後の骨欠損に対する脂肪由来幹細胞を併用した新たな治療の試み 下川 寛右（金沢大学附属病院 整形外科） ○ 頭部外傷に対する水素治療の有効性とその作用機序の検討 大塚 陽平（防衛医科大学校 医学研究科 脳神経外科学講座） 	
(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援 【1,729千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児育成基金を支援し、被害者救済に役立てる。 ○ 令和3年度の交通遺児の加入遺児総数は430名 ○ 自治体等の相談窓口等を通じた基金制度の紹介等。 	○ 拠出団体（国やJA共済連等）の拠出分担割合にもとづく
(7) (公財)交通遺児育英会の支援 【10,000千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通遺児の教育機会均等を目的とする奨学金事業等の支援を目的とする(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済に役立てる。 ○ 令和3年度の在学奨学生数は940名 	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(8) 重度脳損傷後の意識障がい者と家族に関する研究 【970千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通事故等を原因とした重度脳損傷後の意識障がい者と、その家族の介護負担の軽減を図る研究に対して支援を行う。 ○ 重度脳損傷後の意識障がい者の家族の介護負担軽減を図る研究（国立大学法人 筑波大学日高 紀久江） 	○ 活動状況についてヒアリングを実施

4. 後遺障害認定対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備考
(1) 適正な後遺障害認定に資する医療研究に対する支援 【6,000千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 交通事故被害者に対する適正な後遺障害認定に資する医療研究に対する研究費用の一部を助成する。 ○ 令和3年度の課題は、「外傷後の新たなリハビリテーションに関する研究」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ J A 共済医療研究助成審査委員会を開催し、助成対象を選定 ○ 各研究の成果については、報告書の提出を求めるとともに、学会等にも積極的に発表するよう依頼している

5. 医療費支払適正化対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備考
(1) 医療分野研修等の実施 【46,302千円】	<ul style="list-style-type: none"> ★ 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。 ○ 医療研究研修部で、医療費査定業務に従事する者を対象とした医療費研修会（応用コース）、医療調査研修会（整形外科コース、脳神経外科コース、フォローコース）の研修会をオンラインで実施。研修会受講者は合計1,111名 	○ 活動状況についてヒアリングを実施